市民活動推進助成事業報告ニュース

みなさまの寄附金を活用して

大阪を元気にする8事業を支援しました！

～令和５年度 大阪市市民活動推進助成事業～

区政推進基金（市民活動支援型）への寄附金を活用して、令和5年度は8つの事業に対して助成を行いました。

事業を実施している団体より、事業報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

＜令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の寄附について＞

寄附金額　：8,278,607円

★寄附者の皆さま★

【クリック募金協賛企業】（令和6年6月 14 日現在・五十音順）

愛眼株式会社、大阪シティ信用金庫、大阪信用金庫、
株式会社クーバル、クジラ株式会社、株式会社ココロ、株式会社五大、
センコー株式会社、ダイドードリンコ株式会社、株式会社日伝
株式会社ハヤシコーポレーション、株式会社一二三工業所、株式会社フォーシックス、
株式会社宮田運輸、株式会社 LIG

「クリック募金」とは、事業の趣旨にご賛同いただいた協賛企業等のバナーをクリックすることで、協賛企業等からクリック数に応じた金額を大阪市にご寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するシステムです。

【大阪WAONによるご寄附いただいた企業】

イオンリテール株式会社　、　株式会社光洋

「大阪WAON」とは、イオングループの企業が発行する、地域貢献型のご当地 WAON(電子マネー)カードの大阪市版です。
このカードを利用いただくことで、その利用金額の一部を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するしくみです。

【その他令和5年度にご寄附いただいた団体・企業等】

7者

小・中学校のキャリア教育における、
外部プロフェッショナル人材との協働モデル構築事業

団体名： NPO 法人 JAE

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

子ども一人ひとりの「長所」や「自分らしさ」への気づきを促すキャリア教育を通じて、「自他を尊重する態度」や「自分らしい生き方を実現していく力」を育むため、下記１～６を通して、学校現場とキャリアコンサルタントとの協働モデルの構築を行いました。

１．実施校の募集、インタビューをふまえたプログラム開発
２．「協働の進め方ガイドライン」作成
３．プログラム紹介動画の作成
４．教職員研修の実施
５．プログラム実践
６．実施結果の分析

【事業の紹介】

<u>１．実施校の募集、プログラム改善</u>

実施校に児童生徒の様子や学校の思い・ニーズ等をインタビューし、プログラムを改善しました。

<u>２．「協働の進め方ガイドライン」作成</u>

協働を進める際のポイントや手順を「協働の進め方ガイドライン」としてまとめることで、プログラムをより円滑に導入し、効果的に進められるようにしました。

<u>３．プログラム紹介動画の作成</u>

プログラムに関心を持った先生が、短時間でプログラム実施イメージをつかめるような紹介動画をつくりました。大阪市中学校教育研究会研修会において実際に使用し周知をはかりました。

<u>４．教職員研修の実施</u>

より教員主体でプログラムを進められるようにするため、教職員対象の事前研修を実施しました

（１）大阪市立瓜破東小学校

①2024 年１月 26 日：プログラム共有　②2 月 22 日：役割分担すりあわせ)

（２）大阪市立大正西中学校

①2024 年２月９日：プログラム共有　②2 月 15 日：役割分担すりあわせ

<u>５．プログラム実践（計 150 名の児童生徒対象）</u>

キャリアコンサルタントの団体（NPO 法人 xTReeE）と連携してプログラムを実践しました。

（１）大阪市立瓜破東小学校　2024 年３月７日　◆対象：４年生 34 名　５年生 46 名

（２）大阪市立大正西中学校　2024 年３月５日　◆対象：１年生 70 名

<u>６．実施結果の分析</u>

アンケート結果をふまえた効果検証を行い、今後の改善点を検討しました。

【事業実施の成果】

下記のアンケート結果等をふまえると、プログラムの目標は一定達成できたと考えています。今後、子どもたちがより考えやすく取り組みやすくなるようなワークシート内容等の工夫を検討していきます。

1．参加した児童生徒の声

・**ありのままの自分**を受け入れることができた
・自分じゃきづけない**自分らしさにきづけた**から良かった
・**自分を大切に**しようと思った

2．実施校の教員のアンケート結果・声

①目標の達成状況

プログラムの 3 つの目標（A～C）すべてについて、アンケートに回答頂いた 3 名の教員全員が「**とても効果があった**」との回答でした。

A「**自分らしさ**」についての**考えを深める**
B「**自分らしさ**」についての**見方を広げる**
C　**自他の「よさ」を見つけるまなざし**を身につける

②教員の声

- 初対面の大人の方々と話しをすることや、「自分らしさ」について考える機会を与えたことで、**教員では発見できない面**を考えさせられることができてよかった。
- なかなか自分らしさや、それを深堀することに時間がかかっている生徒が多かったですが、考える時間が持てたこと、キャリコンさんとの会話でさらに**深められた**ことがとてもよかったと思います。
- 普段は教員など大人とあまり**積極的にコミュニケーションをとらないタイプの生徒**が、「キャリアコンサルタントさんとの個人面談がとても**楽しかった**。あと一時間ぐらい**話したかった**」と言っているのを聞いて、個人面談が非常に良い経験になったのではないかと思います。

【今後の展望と課題】

1．ワークシートの改善

ワークシートの内容を、子どもたちがより考えやすい内容へと改善予定です。

2．教職員主体で進めるための教職員研修の改善

プログラムをより教職員主体で進められるようにするため、予定より短縮して短時間で教職員研修を実施しました。長時間の研修実施が困難な中、教職員の主体的実施と負担軽減をどのようにバランスをとっていくか検討を進めます。

3．活動財源の確保

助成金に頼らず財政面での自律をめざすため、今後の事業予算の確保が必要となります。教育委員会や学校に働きかけた結果、１校については次年度予算化を実現することができましたた。さらに多くの学校で実施できるよう、今年度作成したプログラム紹介映像やツール等も活用しつつ、今後も様々な方策を検討し働きかけていきます。

4．学校以外の場（サードプレイス）での展開

不登校の子どもを含めより多くの子どもに機会を届けるため、そしてより多様なニーズに応えられるようにするため、２０２4 年度はサードプレイスにおいてプログラムを実施予定です。

疾患の早期発見に貢献する“画像診断オンライン講座”の制作・運営

団体名： 特定非営利活動法人メディカル指南車
https://www.medicalshinansha.or.jp

助成額：646,000 円

【事業の目的】

・事業の背景

現代医療では X 線、超音波、内視鏡などは各診療科で最初に行われる画像診断であり、正しい診断や治療のためには不可欠な手段です。正確な診断には高度な専門知識と熟練が必要ですが、実際の臨床現場では医療機関によって画像診断の精度には「ばらつき」が大きいのが現状です。

・メディカル指南車にはその解決策があります

大阪大学、大阪市立大学、関西医科大学など、大阪を代表する大学病院の「専門医」と知識情報処理の研究者がメディカル指南車に集合し、不足する「専門医」に代わって情報処理を活用して患者やその家族、医療従事者に効率的に医療や健康に関する情報を提供してきました。

そこで、これまでのノウハウを活用して「専門医」が画像診断のポイントや症例を解説する**“画像診断オンライン講座”**を開発して YouTube で公開すると共に**“知言大放送局”**や **Twitter@活動記録**での情報発信を通じて、画像診断に携わる医療従事者や画像診断に関心のある市民のためのプラットフォームを構築して、大阪市民の健康長寿に貢献するために活動しています。

【事業の紹介】

画像診断オンライン講座ちゃんねる：https://www.youtube.com/@user-si3cn5xj7j

2023 年度は 7 本のビデオを公開して 8 万回を超える再生回数と 800 人を超えるチャンネル登録者数を獲得しました。

知言大放送局：https://www.youtube.com/@user-lr7uy5yu1k

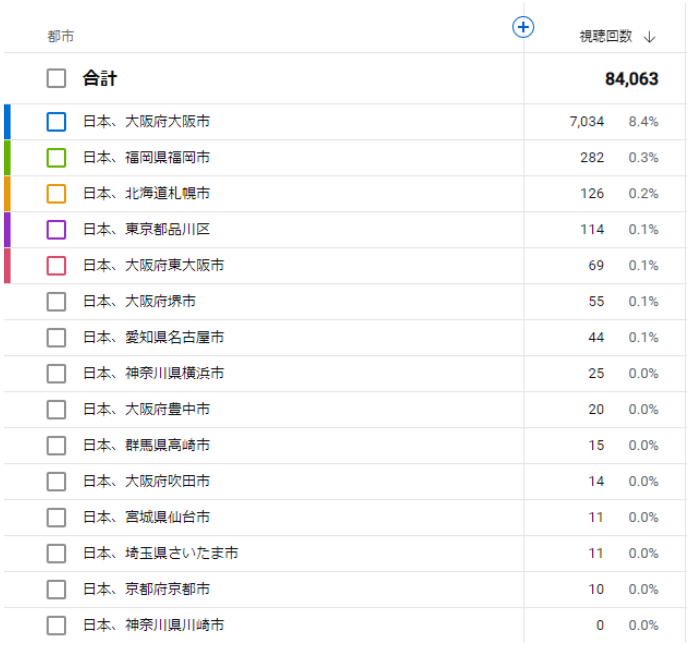
大阪市民の医療に対する理解や医療従事者との信頼関係を醸成すべく、全 5 本のビデオを公開中です。

【事業実施の成果】

画像診断オンライン講座：

期間中に 7 本のビデオを公開して、YouTube や Google、X（旧 Twitter）などで広報宣伝を行ったところ、８万回を超える再生回数と、800 人を超えるチャンネル登録数を獲得しました。右図に都市別の再生回数/再生時間、視聴者の年齢を示します。

都市別では大阪市がダントツであり、大阪市市民活動助成事業に選定されている効果が認められます。一方、年齢別では、18 歳から 65 歳以上のあらゆる成人に視聴されていることから、広い年齢の大阪市民に支持され、視聴されていることがわかります。



都市	視聴回数 ↓	
合計	84,063	
日本、大阪府大阪市	7,034	8.4%
日本、福岡県福岡市	282	0.3%
日本、北海道札幌市	126	0.2%
日本、東京都品川区	114	0.1%
日本、大阪府東大阪市	69	0.1%
日本、大阪府堺市	55	0.1%
日本、愛知県名古屋市	44	0.1%
日本、神奈川県横浜市	25	0.0%
日本、大阪府豊中市	20	0.0%
日本、群馬県高崎市	15	0.0%
日本、大阪府吹田市	14	0.0%
日本、宮城県仙台市	11	0.0%
日本、埼玉県さいたま市	11	0.0%
日本、京都府京都市	10	0.0%
日本、神奈川県川崎市	0	0.0%

視聴者の年齢 ↓	視聴回数
13～17 歳	–
18～24 歳	5.0%
25～34 歳	16.6%
35～44 歳	9.8%
45～54 歳	19.3%
55～64 歳	20.9%
65 歳以上	28.4%

知言大放送局：

画像診断に限らず円滑な医療を受けるためには、医療従事者と患者との信頼関係を醸成することが重要です。

そのために大阪市のプロポーザル事業の一つである大阪市市民活動総合支援事業において誕生した YouTube チャンネル**“知言大放送局”**に大阪市民が医療や医療従事者への理解を促進するためのビデオを公開し、大阪市民向けの X アカウントや大阪市市民活動総合ポータルサイトで広報宣伝を行ってきました。また、大阪市の各施設に知言大チャンネル紹介のポスターを配布しました。

最後に

これらの事業を 2022 年度、2023 年度の 2 年間行った結果、画像診断オンライン講座のビデオは計約 15.8 万回、知言大のビデオは計約 1.6 万回再生され、多くの大阪市民の健康長寿に貢献できたと考えています。

【今後の展望と課題】

2022 年度、2023 年度と大阪市市民活動推進助成事業に選定された成果として、医療従事者のみならず、大阪市民に対して「自らの健康を守り健康長寿を実現するための心得」について情報発信を行った結果、多くの大阪市民に視聴していただくことになり、大阪市民が**「普段知ることができない医療に対する知識」**を欲していることが証明できました。

2024 年度は審査委員の理解が得られず採択されなかったので、大阪市民に対しての情報発信はこれで終了し、今後は日本国内はもちろんのこと、東南アジア諸国の画像診断のレベル向上を目指して、賛助会員と力を合わせて**“画像診断オンライン講座”および“画像診断ナレッジサービス”の医療従事者への普及を通じて人々の健康長寿への貢献を目指します。**

１人１人の成長の場所！ろーたすフリースクール事業！

団体名： NPO 法人ろーたす
https://lotus20190401.work/

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】
1.不登校・苦登校の児童生徒は、本来学校教育により育まれるはずの力が身に付かないというデメリットを軽減する。
→活動の中で自己肯定感を養い、コミュニティーの中で社会参画への力を身に付け、自立した個人へと成長していくための力を育む。
2.保護者の心身への負担に起因する家庭のＱＯＬ低下の緩和。
→親の会・日常的に行う個別対応を中心とした保護者への心身のケアより各世帯のＱＯＬの向上を目指し、よりよい養育環境が家庭内で創られるようアプローチしていく。

【事業の紹介】
～事業概要～
不登校・苦登校の児童生徒に向けた、学習機会の確保・自己実現の場の提供・サードプレイスの提供を目的として、フリースクール運営を行う。社会参画・進路獲得・自立に向けた力を養うことを目標とする。
また、不登校・苦登校の子どもを持つ保護者を含む、子育てに悩む保護者の方々にも様々な角度からアプローチして参りたい。
～フリースクール開設日時～
・開設時間　月～金曜日 10 時～17 時（17 時～18 時は振り返り）
※土曜日は月２回程度行事開催
～開催場所＝
教室内（教室ろーたす・教室おれんじ）
～利用人数/日～
20 人　※2024 年３月時点

【事業実施の成果】
☆子ども達に多方面から教育を提供しながら、周囲を巻き込むことができました。
・沢山の体験活動や行事で、多様な教育環境の提供できました。
・居場所事業をはじめ各事業との連携でバックボーンに関わらず、子ども達同士が関わることができました。
・スモールステップ支援表や親の会、日々の関わりの中で保護者と人間関係を築けました。
・親の会の名前を『スナックろーたす』と保護者が命名。参加人数増、懇親会や親子遠足を開催することができました。
・スタッフが固定化でき、組織として動けるようになってきました。
・運動会、『ろーたすワンダーラスト（表現教育の WS）は 100 人規模で開催することができたり、お餅つきには地域の方々や他団体も参加されました。
・地域との繋がりが強固になっており、認知度が向上していると感じます。
・教員向けの学校研修や中学校・高校でのキャリア教育を担当させて頂きました。

☆外部との連携・協働
・他団体と協働で様々なイベントを開催できました。更にそのイベントにおいて、後援を教育委員会・社会福祉協議会から頂くことができました。
・学校や各機関と子どもについての協議・面談・ケース会議を行い、各ステークホルダー同士で足並みをそろえ、子ども達へのより良いサポートに活かすことができました。

☆運営体制の整備
・事務局長、会計担当のスタッフを配置し、バックヤードが安定しました。
・マンスリーサポーターが 80 名を突破、企業スポンサーが１１社になりました。
・スタッフへの研修を充実させることができました。

【今後の展望と課題】
～展望～
・通信制高校とサポート校としての連携を図り、高校生への充実した支援に努めていきます。
・2024 年度終了時には常勤スタッフ５名、非常勤スタッフ２名で運営できるよう（現在は常勤スタッフ４名、非常勤スタッフ5名。）体制を整備致します。
・マンスリーサポーター２００名、企業スポンサー１５社を目指し、運営資金の充実に努める。
・法人内に多様性を担保し、住吉区の中で『無くてはならない団体』として信頼頂けるよう、日々の事業運営に努めて参ります。
・摂南大学の前学長をアドバイザーに迎え新たな教育カリキュラムの提供を実施し、教育の質の向上に努めます。
・フリースクールのイメージを変革し『不登校の子ども達が仕方なく行く場所』から、名実ともに『新たな教育の選択肢』となれるよう、アップデート致します。

縁がわスペース・フォロ事業

団体名： NPO 法人フォロ
http://foro.jp/

助成額：634,000 円

【事業の目的】

不登校児童生徒数が激増しており、2022 年度は約 30 万人を記録。孤立化している家庭や、不登校の低年齢化により付き添いが必要な子どもとその親などとつながれるよう、会員以外の人も気軽に立ち寄れる開放型居場所を実施しています。当法人の卒業生にとっては、ゆるやかな関係を継続させる機能も果たします。

【事業の紹介】

1．「フォロであそぼう」

フリースクール・フォロで普段おこなっている活動の一部に、当法人に在籍していない子どもは親子で、またはフォロ卒業生も参加できるプログラムを６月から開催しました。室内での活動だけでなく、お出かけなどの企画や親向けの企画も実施しました。

・プレ企画 北御堂「花まつり」４月８日(土) ８名　・せみ採り７月 11 日(火) ７名　・フォロ祭り９月 17 日(日) 約 50 名
・サビキ釣り 10 月２日(月) ６名　・みかん狩り 12 月８日(金) 10 名　・クリスマス会 12 月 25 日(月) 20 名
・雪遊びにいこう２月５日(月) /29 日(木)雨天中止　・年度末パーティー3 月 22 日(金) 19 名
・リコーダーを奏でよう６月 27 日(火) ６名、10 月 30 日(月) ８名、12 月 11 日(月) ７名、２月 12 日(月祝) ６名
・体育館であそぼう８月 31 日(木) ８名、９月 28 日(木) ７名、11 月 30 日(木) ９名、３月 14 日(木) ６名
・焚き火マイスターを目指そう！６月６日(火) ８名、９月 21 日(木) ８名、11 月 28 日(火) ９名
・親の会 日曜サロン６月 23 日(日) ６名、11 月 26 日(日) ５名、２月 18 日(日) ６名
・オリジナルかばんを作ろう８月 28 日(月) ９名、１月 29 日(月) ８名
・コラージュを体験しよう 10 月 18 日(水) ７名、３月 11 日(月) ５名
・好きな香りをみつけよう 11 月 20 日(月) ７名、２月 21 日(水) ８名
・むしのホテル 11 月 23 日(木祝) 36 名、３月 17 日(日) 27 名

2．Q’s kitchen「キッズブース DAY」

もりのみやキューズモール BASE にご協力いただき、フードコート内で居場所活動を実施。近隣の企業や活動団体と協働で、子どもたちにミニゲームを楽しんでもらったり、子育て家庭に子どもの居場所の情報を届けたりしました。

第１回目　６月 23 日(金)　参加者約 140 名
第２回目　９月　１日(金)　参加者約 160 名
第３回目 11 月 10 日(金)　参加者　　60 名
第４回目　１月 19 日(金)　参加者　138 名
第５回目　３月 22 日(金)　参加者　154 名

【事業実施の成果】

アンケートを実施した際の参加者の声としては

・ふだん家の中で過ごすことが多いので、他の人に会ったり、体を動かしたりできる機会があってよかった。

・今日のイベントのような、親の目の届くところで子どもを見てくれるところがあるのが嬉しい。

といった内容があり、概ね好評だったのではないかと受け止めています。

当フリースクールに見学に来られた親子とその後もつながる方法として、今までは法人の発行するメールマガジンへの登録のみで、体験入会に至らない場合は顔の見える関係を続けることが難しかったですが、この事業を実施することにより、見学後の親子とつながる方法がひとつ増えました。

フリースクールに通う子どもたちにとっても、いつもはあまりおこなわない企画を実施することができたり、ふだん会わない講師の方と一緒に取り組んだり、数回のシリーズで実施できたりしたことで、活動の幅が広がりました。

また、卒業した子どもたちにとっても、断続的に当法人に立ち寄ることができる機会となりました。このような機会をきっかけにして、さらに発展的なサークル活動にもつながっています。

今は不登校でなくても、もし子どもが学校に行きたくないと言ったときに、近くに問い合わせる先があることを知って安心したというような声をよく聞いたため、社会や地域に存在を知ってもらえた効果があるのではないかと感じています。

また、イベント企画し、協力してくださる団体やボランティアと一緒に実施できたことで、従事者同士の交流やつながりが生まれました。協力団体のなかにも、地域とのつながり方を模索されていたところがあり、それを実現できたことで意義のある機会となりました。

【今後の展望と課題】

計画段階では、フォロの建物内でまったりと集まっておしゃべりできるようなイメージを想像していましたが、企画を進めていくと、不登校の子どもたちは、ふだんどちらかといえば家の中で過ごしていることが多いので、外に出かける機会があればと考えている親の方が多いことが分かりました。2024 年度は、室内の企画を減らし、屋外での企画や体を動かすことのできる企画を多めに計画しています。

実施時間帯について、親子参加の企画でしたが、きょうだいがいる場合などに親が家にいないといけない時間帯は参加しづらいですが、そのような時間帯の開催になってしまっていたかもしれません。さらに、各企画の詳細の決定が実施の直前になってしまうことがあり、告知が充分にできなかったときがありました。年間の予定をあらかじめ決めておき、チラシにも早い段階で詳細が載せられるように計画的に開催していきたいと思います。

入会まで至らない家庭や、フリースクール卒業生のつながれる場として、引き続き開催の予定ですが、どのようにすればフォロが気軽に立ち寄れる場となるのか、検討と試行錯誤を重ねていきたいと考えています。

ショッピングモールでの取り組みは、親子が楽しめ、つながれる場を提供できるよう、改善しながら引き続き開催を予定しており、地域住民へのアピールの機会にしていきたいと考えています。この取り組みにフリースクールの子どもたちも参加できるよう、働きかけをおこなっていきます。

放課後スペース viva!しゅくだいカフェ

団体名： 放課後スペース viva!運営委員会
https://syukudai-cafe.net

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

放課後の子どもの居場所不足や、地域とのつながりの欠如などの課題解消のために、月曜日-金曜日の 15-19 時に子どもたちに対し、完全無料で居場所を提供する。
① 子育て世帯の「家族だんらん（夜の２時間）を確保
② 放課後、子どもたちが安全に安心して学べる、遊べる居場所づくり
③ 課題やハンデを持つ子どもを、自然なコミュニケーションの中でサポートする。
以上３つの目的を達成するために活動している。

【事業の紹介】

・大阪市東淀川区で、区内の小学生、中学生を対象とした居場所を無料で開放し、大人の見守りがある中で、必ず宿題を終わらせる。
・活動日は、平日の 15-19 時で、常に無料で居場所を開放している。
・累計 570 名の子どもたちが登録・利用
・１日の平均利用は１年を通して平均して約 7.8 名
・月額サポーターによる寄附金額、平均で 65,000 円、加えて、月に１回チャリティー飲み会を開催し、食事をしながら毎月の活動報告、今後の展望などの報告を行う会を開催し、そこでの寄附で運営している。
・このような子どものための第３の居場所があることを認知してもらうための発信を強化する。
・居場所としての質（遊び場としての楽しさ・居心地の良さなど）を高めるために、子どもたち自身の意見を聞きながら、「場の改善、改良のための試行錯誤」を行う。
・運営委員５名、スタッフ３名、ボランティア 54 名、月額サポーター37 名で運営している。
・社会人や大学生、高校生などの様々な立場のボランティアスタッフのかたが、子どもたちと関わることで、子どもたちの視野が広がったり、家庭や学校などでおきた問題を相談できる相手の選択肢を増やしている。

【事業実施の成果】

事業実施は、お盆休業（8/13-16)、年末（12/23-1/5）以外の平日は毎日活動いたしました。ボランティア従事者数は、時間帯に責任を持ってワンオペ運営をすることができるスタッフが 8 名、ボランティア先生が 53 名です。

申請時に記載しました、放課後に安全な場所があることで、保護者がフルタイムで安心して仕事ができることや、子供を取り巻く環境を熱くするという目的に関しましては、普段の保護者の方々とのコミュニケーション、子どもたちの反応などで考えましても、達成することができたと考えられます。

この活動のニーズは、子育て世帯の、子どもを預かっておいて欲しい、またシングルマザーの世帯には「子どもの宿題を見ておいてほしい」というものに加えて、今年は新たに、子ども同士の関係性が心配なので、どんな雰囲気で接しているか、子どもの様子はどうかなどのお問い合わせも、保護者の方々に直接足すねられる事も多く、対応できる範囲では対応もさせていただきました。

【今後の展望と課題】

一昨年、去年に引き続き、

・安定したボランティアスタッフの確保

・安定した財源の確保

の２点はあるのですが、現在対策として、月に一度チャリティー飲み会を開催し、いただいた寄附を活動費に充てるということを行っているので、その活動の収益の安定化を図ること。

新しくインスタグラムを開設し、大学生や高校生の若い層へのアプローチを行うために、まずは計画的にアカウントを運用する練習、そして口コミなどで地道にフォロワーを広げていくことを直近の課題とし、その後は SNS 運用として、投稿内容やハッシュタグの工夫、収益が上がれば SNS 広告を出すなど、人材募集に加えて団体の知名度、社会的信頼のアップにも努めたいと思います。

高齢者の命が輝く居場所づくりの展開事業

団体名： 特定非営利活動法人希望の居場所
http://www.1000c.jp

助成額：801,000 円

【事業の目的】
健康寿命を延ばすフレイル予防を核とした居場所を大阪市内の各地に作ることにより、生き生きとした高齢者を増やし、健康で長寿の社会づくりを目的とします。そのため①高齢者の健康寿命を延ばす　②高齢者を社会に活かすに活かす　③高齢者のケアをする　３つの活動を行います。

【事業の紹介】
１．フレイル予防事業
（１）おとな食堂（栄養）希望の居場所において　～参加。
①４月４日 11 名②４月 11 日９名③４月 18 日 11 名④４月 25 日 18 名⑤５月２日８名⑥５月９日６名⑦５月 16 日８名⑧５月 23 日１２名⑨５月 30 日 10 名⑩６月６日 12 名⑪６月 13 日 14 名⑫６ 月２０日１３名⑬６月２７日１３名⑭７月４日９名⑮７月１１日８名⑯７月１８日１１名⑰７月２５日７名⑱８月１日１０名⑲８月８日９名⑳８月２２日１１名㉑８月２９日１３名㉒９月５日１３名㉓９月１９日１１名㉔９月２６日１４名㉕１０月３日１１名㉖１０月１０日１２名㉗１０月１７日１１名㉘１０月２４日１１名㉙１１月７日１４名㉚１１月 14 日 13 名　㉛11 月 21 日 15 名㉜11 月 28 日 14 名㉝12 月５日 13 名㉞12 月 12 日 13 名㉟12 月 19 日 11 名㊱12 月 26 日 11 名㊲１月９日 13 名㊳１月 16 日 15 名㊴１月 23 日 14 名㊵１月 30 日 13 名㊶２月６日 12 名㊷２月 13 日 15 名㊸２月 20 日 12 名㊹２月 27 日 15 名㊺３月５日 16 名㊻３月 12 日 16 名㊼３月 19 日 15 名
（２）健康体操教室（運動）京橋グリーンハイツ集会所において　～参加。
①４月 13 日８名②４月 22 日６名③５月 13 日８名④５月 25 日 10 名⑤６月 22 日 11 名⑥６月 24 日 10 名⑦７月 13 日 12 名⑧７月 22 日 11 名⑨８月 17 日 11 名⑩９月 21 日 13 名⑪９月 30 日 12 名⑫10 月 10 日 12 名⑬10 月 28 日 14 名⑭11 月４日 12 名⑮11 月 25 日 16 名⑯12 月２日 12 名⑰12 月 13 日 12 名⑱１月 11 日 14 名⑲１月 27 日 13 名⑳２月３日 12 名㉑２月 22 日 13 名㉒３月２日１６名㉓３月２１日１４名

（３）土井龍雄先生の健康寿命が延びるセーフティウォーキング講座
①１１月２５日　東都島福祉会館において歩き方の講座と指導を実施し、２１名参加。
②3月2日　東都島福祉会館において歩き方と筋トレの指導を実施し、１８名参加。
（４）こども食堂（社会参加）東都島福祉会館において　～参加。
①4月１５日２７名②5月２０日１６名③6月２６名⑦7月8日３３名⑧8月１２日３６名⑨9月9日４１名⑩１０月１４日５０名⑪１１月 11 日 55 名⑫12 月９日 58 名⑬1 月 13 日 48 名⑭2 月 10 日４４名⑮3月9日６０名
２．居場所づくり講演会（リボーンチャレンジセミナー）
①5月１８日　市立生涯学習センターにて「心理学から見た明るい未来」講演を実施１３名参加。
②6月２６日　市立生涯学習センターにて「大阪関西万博出展」講演を実施１７名参加。
③7月１４日　市立生涯学習センターにて「高次脳機能障害の社会復帰」講演を実施１９名参加。
④8月２４日　市立生涯学習センターにて「応援環境型プラットフォーム」講演を実施２２名参加
⑤9月１５日　市立生涯学習センターにて「認知症予防のゲーム」講演を実施２２名参加。
⑥１０月１５日　市立住まい情報センターにて「子供と高齢者の居場所」講演を実施１２２名参加
⑦１１月２９日　市立生涯学習センターにて「自宅での生活を諦めない」講演を実施２１名参加。
⑧3月１３日　市立生涯学習センターにて「在宅で最期を選択肢に」講演を実施１９名参加。

【事業実施の成果】
フレイル予防の栄養・運動・社会参加を一貫して実施して、参加者のコミュニティがしっかりできました。口コミで参加者が増えてきました。健康寿命が延びた感覚を共有しています。
大阪市の介護保険料は、日本一高い月額 9,246 円です。一人暮らしの 65 歳以上の高齢者は、４５％で、全国平均の３０％を大きく超えています。ＮＰＯ法人希望の居場所の活動であるフレイル予防は、介護保険の利用抑制に効果があります。高齢になっても介護を受けず元気で暮らせる状態（Well-being）を作っていく活動です。協力し助け合う相互扶助の居場所は、一人暮らしの高齢者を受け入れて健康寿命を延ばす活動をしています。

【今後の展望と課題】
大阪・関西万博の TEAM EXPO パビリオン出展が決まりました。「おもろい大阪、高齢者もワクワクする未来の暮らし」と題し、健康・Well-being 部門で出展します。
TEAM EXPO ミーティングに参加し、「共創」できる仲間と出会いました。フレイル予防を核とした高齢者の居場所を全国に広めていきたいと思っています。

引きこもりからの解放！！精神障碍者のための回復コンサート

団体名： 特定非営利活動法人ジェイズ・マス・クワイア
https://www.facebook.com/groups/634876307087826

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

私たち法人は鬱病などにより増加する引きこもり者、また親子関係の希薄さが原因で、他者特に親に触れられなくなる愛着障碍児の減少を目指し、音楽を通じた地域の人々の豊かな心を育む文化、芸術活動により、精神障碍者また児童の心の回復を図ること。
また障碍者家族会の参加による家族の関係の回復を目指すことが私たちの事業の目的です。

【事業の紹介】

⑴イベント開催日：２０２３年１２月２日「家族の絆　クリスマスコンサート」
〇場所：大阪市立平野区民ホール　大阪市平野区平野南 1-2-7
〇参加者数：197 名

⑵定期音楽交流会
①４月８日　「田辺 Gospel House」にて、イベントに向けての音楽会実施。１２名が参加。
②５月１３日　田辺 Gospel House にて、イベントに向けての音楽会実施。１２名が参加。
③６月１７日　「田辺 Gospel House」にて、イベントに向けての音楽会実施。１４名が参加。
④７月２９日　「田辺 Gospel House」にて、イベントに向けての音楽会実施。１３名が参加。
⑤８月５日　「田辺 Gospel House」にて、イベントに向けての音楽会実施。１４名が参加。
⑥９月９日　「田辺 Gospel House」にて、イベントに向けての音楽会実施。１５名が参加。
⑦１０月１４日　「田辺 Gospel House」にて、イベントに向けての音楽会実施。１２名が参加。
⑧１１月１１日　「田辺 Gospel House」にて、イベントに向けての音楽会実施。１５名が参加。

【事業実施の成果】
参加者の声障碍者家族会：Jaye 公山様、そしてNPO 法人ジェイズマスクワイアの皆様、この度は息子がコンサートに出演させていただき、本当にありがとうございました。息子も、もう４０歳を過ぎて、長いこと引きこもりの生活を送っていますが、このような外に出る機会を与えていただけて感謝しています。これからも息子共々よろしくお願いします。
精神障碍当事者：コンサートで歌いました。楽しかったです。会場にたくさんの人が来ていて緊張しましたが、一生懸命歌えてよかったです。

市民や寄付者様に対して：今回の事業の目的は「引きこもりからの解放と家族関係の回復」です。鬱病などによる精神障碍者の引きこもり期間が長くなると、当然のことながら家族関係が悪化する、ということが現実化する状況を見て来ました。
今回事業に参加した精神障碍者の中にも１５年以上の引きこもり者が数名。
また２０年以上という方も１名おられました。
その方のお父さんの年齢は７５歳で、今だ現役で働いていらっしゃるという現状を見ますと、やはり家族の中に年々「不安」というものが広がって行く、ということは否めない事実です。
今回は音楽のみならず、新しい試みとして、プロの整体師による「親子整体」をステージと会場で実施しました。
普段なかなかコミュニケーションが難しい障碍者や、愛着障害児の家族の良い触れ合いの時になったと、心から喜んでくださいました。
私たちの事業の目標は、鬱病や引きこもりに苦しむ人々の、心の痛みからの解放であり、寄付者様、参加された市民の皆様のお心により開催させていただくことが出来た本事業によって、社会問題の解決ともいえる、私たちの掲げた目標に大きな一歩を歩ませていただけたこと、心から感謝しております。

【今後の展望と課題】
２０２４年度は事業の着地点として、コンサート形式のイベントを１２月７日（土）に大阪市立平野区民ホールで行う計画です。それまでに、４月から毎月一回の定期音楽交流会を開催。さらにはコンサートに向けてオリジナルソングを制作し、参加者のモチベーションが上がって行くよう事業を進めて行きます。
そして今後の展望としては、今年度より一般社団法人こどもみらいラボ（渡辺洋亮代表）に加え、プロの整体師、東岡誠氏に加わっていただくことにより、ステージと客席で同時に、子供が「お母さんの耳たぶをさわる」「背骨の数を数える」「心臓の音を聞く」などの、親子整体の実施が可能になります。このような親子のふれあいを中心とした心の回復事業を充実させ、地域を更に活性化させて行きたいと考えおります。
そして課題はやはり地域における精神向上活動をどのように効果的に、また継続的に行っていくか？ということであると思います。そのためには地域の障碍者のみならず、家族がもっと参加しやすい事業の構築を目指し、交流会の中でのレクリエーションなどの充実を更に図り、大人も子供も楽しく参加出来る環境を創り上げて行くことにより、課題の解決を図って行く所存です。

ネグレクト児童およびヤングケアラーへの寄り添いサポート事業

団体名： Minami こども教室
https://minami-kodomo.org

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

Minami こども教室は 2013 年から大阪市中央区において、外国につながる子どもたちを対象に、学習支援を通したきめ細やかな見守りをめざし活動してきました。社会・経済・文化的な背景から「しんどさ」を抱える多くの子どもたちと出会い、中にはネグレクト児童に該当する虐待ケースや、ヤングケアラーとして家庭を支える子どもたちのケースに対応してきました。

本事業は、これまでの子どもの見守り活動をさらに進めて、ネグレクト等の事案の早期発見に努めるため、市内の子ども支援団体および事業所との連携をより深め、当団体内の相談機能を強化することを目的としています。

ニーズの高い子どもへの円滑な対応と、子どもの SOS をいち早くキャッチし、子どもたちに寄り添う持続的な支援をめざし、相談窓口と SNS を利用した相談体制を整えています。また、広報活動を通した子どもサポートのすそ野拡大化に向け、社会啓発を強化していきます。さらに、子ども自身の自尊感情を育み、虐待等から自分自身を守るための「生きる力」を支えるキャリア支援や社会体験活動の充実をはかっていきます。

【事業の紹介】

１．相談窓口の開設

〇子どもたちと保護者を対象とする相談窓口

４月～３月、週２回 17:00～20:00・計 102 回

Minami こども教室、子ども食堂しま☆ルームの開催に合わせた相談窓口を、道仁連合会館、中央区子ども・子育てプラザにて開設（毎週火曜日・水曜日）し、子ども・若者たちの悩みや困りごとを聞き取りました。 相談内容はケース記録に適切に記載し、必要に応じて学校や専門機関と連携を取り、問題解決を目指しました。

〇SNS・電話相談窓口を開設　４月～３月

LINE ビジネスの機能を利用して、相談窓口を開設し、年度当初より相談受付を開始しました。相談時間は月・水・金曜日の 14:00～22:00 に設定しました。

２．同行支援、学校訪問、家庭訪問の実施およびケース共有会議の開催　４月～３月

窓口での相談内容に応じて、適宜同行支援や家庭訪問を行いました。また、どのような支援が必要かを相談員や学校・地域の支援者・行政の担当者で話し合うケース共有会議を中央区子ども子育てプラザで月１回実施しました。

３. タウンミーティングの開催
　10 月 31 日　参加者 50 名
多様な背景をもつ子どもに関わっておられる学校、行政、諸団体の方とともに、これまでの活動報告と、これからの支援における課題・展望について意見交換を行いました。

タウンミーティング

４. さまざまな「しんどさ」を抱える子どもたちのための社会体験活動の企画・運営・引率

人権フェスタ

・JEO こども食堂への参加者　４月～３月・計 12 回　参加者 239 名
・火おこし体験への参加５月 27 日　参加者 31 名
・夏休み特別活動　7～８月３回、参加者 41 名
・中央区盆踊り大会への参加　８月５日　参加者 52 名
・サマーキャンプ　８月 22 日～23 日　参加者 57 名
・人権フェスタでのダンス披露　２月 11 日　参加者 10 名
・遠足（ハーベストの丘）　３月 20 日　参加者 80 名

【事業実施の成果】
〇相談件数 223 件
〇同行支援等数 88 件
〇ケース共有会議の実施 12 回
〇タウンミーティング参加者５０名
〇社会体験活動のべ参加者数　500 名

遠足（ハーベストの丘）

相談窓口や電話相談の機能が定着し、これまでは接点がなかった相談者からのアクセスが増えました。相談件数は昨年度より減少しましたが、１件１件の相談内容が深刻で重大な事案が多く、件数だけでは判断できない事業の成果があったと考えています。タウンミーティングを実施でき、これからの子ども支援のあり方について意見交換ができたことも大変有意義であったと考えます。また、今年度は社会体験活動を充実させることができました。子どもたちにとってレスパイトとしての意味合いも含め、大切な機会を提供できました。

【今後の展望と課題】
１. 本事業については対象を大阪市全域の 18 歳までの子どもとその保護者としていますが、Minami こども教室の活動場所である中央区と離れた地域の方から相談を受けた場合、同行支援や対面での相談を継続するのが難しいことがあります。今後はより広域の他団体との連携を拡充することにより、幅広いニーズに対応できる体制づくりを行っていきます。
２. SNS 相談窓口を開設し、チラシやポスター、HP、Facebook 等でも周知を行っていますが、相談件数はごく少数に留まっています。もちろん、相談のチャンネルは多い方がいいので、今後も SNS 相談の受付は継続しますが、より速やかに安心して相談できる手段を考えながら、多くのネグレクト児童やヤングケアラーという状況に置かれている子どもたちに繋がれるよう広報を充実させていきます。
３. 相談が長期化するケースにも相談員が疲弊せず常に適切な支援を継続できるよう、スーパーバイザー制度を取り入れるなど、新たな相談体制づくりを進めます。